国際政治論 １２・３

Copyright : Takumin

2007年12月3日

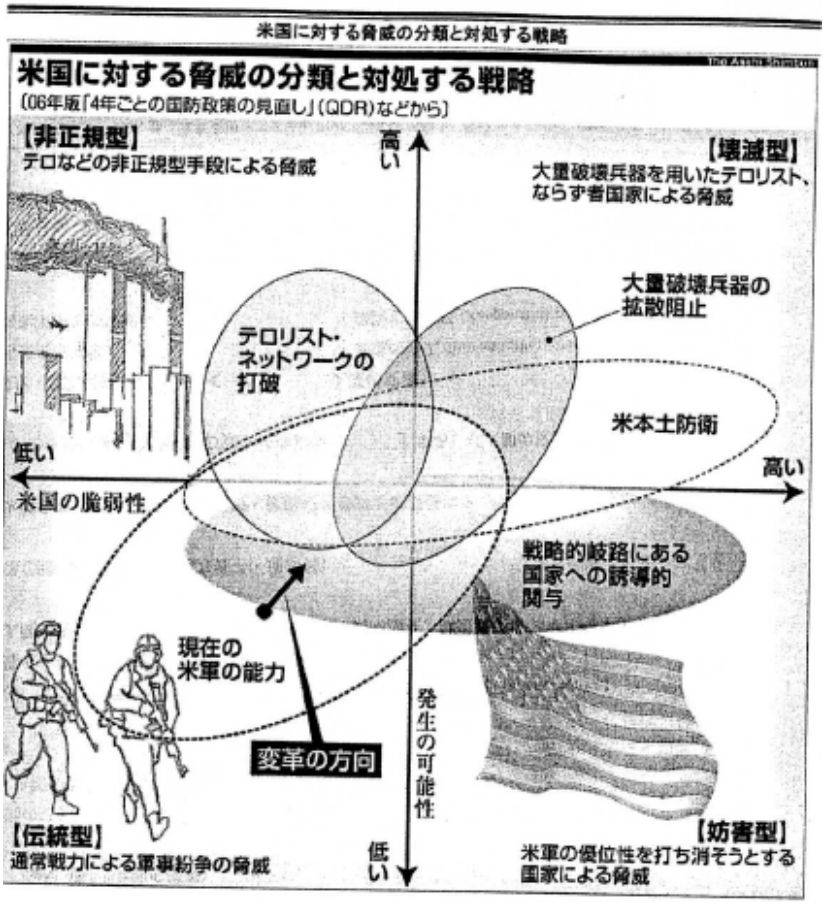
21:26

＜2＞安全を脅かすものは何か（安全保障上の脅威）
一伝統的脅威　（テキスト、第２章）

１、伝統的脅威　ー＞ポスト９．１１は？

例：米国防総省 QDR(Quadrennial Defense Review：4 年毎の国防政策の見直し）（06 年版）
「不安定の孤」（arc of instability）

最近何が脅威かと言ったときに、今まではテロや海賊など非伝統的脅威の話をした。なぜそれが注目されるのかというと、一番世界の中で力となっているアメリカ自身が脅威認識を抱いているからである。



国家が何か戦争を起こすと言うよりも、非国家主体やテロ支援国家、破綻国家などの結託がアメリカ本土を攻撃するという方が蓋然性が高いという風にアメリカは認識している。なので米軍の能力も変革しなければならないと言われている。なので、在韓米軍を減らして、北朝鮮の脅威は韓国に任せるから、残りを中東に行けるようにするとか、色んな形でグローバルに展開できるような軍隊にしようとしている。そういう認識を抱いている。

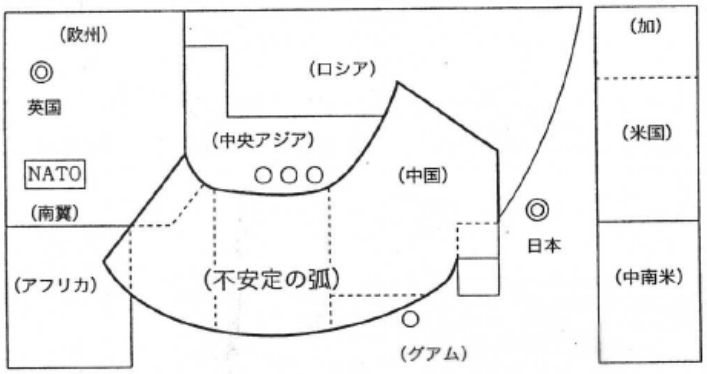
しかし、国家が全く問題ないのかというとそうではなくて、妨害型というのがある。米軍の優位性を打ち消そうとする国家に対する脅威である。もっともアメリカが懸念しているのは中国である。中国がこれから台頭していって、経済発展を伴って、軍事力をつけてきている。そういう中で、例えば西太平洋や台湾、最近は中国が米軍の潜水艦を阻止できるような能力を持ってきているのだ

が、そのようにして米軍の優位性を打ち消そうという国家が現れた場合にどうするのか。やはり単にアルカイダと戦うだけの軍事能力だけではなくて、中国の海軍・空軍をどうするか。イランとどういう風に対応していくのかなども戦略的岐路である。後インドも。そのような、大国になりつつある国々とどのようにしてやっていくか。このあたりの脅威認識である。

このようなアメリカと日本は同盟を結んでいるのだが、同じ脅威認識であれば問題ないのだが、日本の場合はもちろん対テロ国際紛争もあるのだが、むしろ自分の国境の周辺の方が危なくなってきている。そのような伝統的脅威の方が日本にとっては問題になってきていて、しかし対テロもやらなきゃならないという状況におかれている。

不安定の弧についてであるが、そういう危ない不安定な地域、非正規型・壊滅型脅威が集中しているのが、この不安定の弧なのである。

別表２　米軍再編に伴うグローバル・バランス



昔（冷戦）であれば、朝鮮半島とドイツで紛争が起きるから、これに対処するために、ソ連を封じ込めるために全面的に、軍隊を作ろうということだったのだが、現在ではどちらかというと南方の方に脅威認識がいっていて、どうやって対処するかということで軍隊の再編成をしている。

２、様々なレベルの脅威

国家レベルの脅威：国家の安全を直接的に脅かす要因

例：侵略(aggressor)・現状不満国（現状変更国）　REVISIONIST　STATE

地域レベルの脅威：地域安全保障環境を脅かす要因

国際レベルの脅威：国際安全保障環境を脅かす要因

脅威といっても様々なレベルの脅威があって、福田首相が考える第一義的な脅威は国家レベルの脅威である。国家に直接影響を及ぼす事態を対処する。いわゆる侵略や今の国境や領海に不満を持っている国（現状変更国）も要注意ということで格付けされている。要は地域覇権国がそのような野望を持っているかである。なので日本から見ると、中国が現状維持で満足している国なのか、現状変更国なのか、ここを見極めるのが大変である。

地域レベルの脅威がある。これは例えば朝鮮半島の問題と中台の問題がある。中国と台湾が別に衝突しても日本の領土に問題はない。しかし、間接的になりうる。もし台湾が独立するとなると、中国は武力などを使って対応せざるを得ない。日本にとっては、台湾海峡が乱れることによって、船が止まってしまう。石油などをどうやって輸入するのか。日米同盟上の約束が台湾関係ではあるので、対処しなければならない。ということで、間接的にいずれ自分の領土に及ぼすかもしれない問題というのがあって、それを地域レベルの脅威と呼んでいる。

台湾は中台の軍事バランスが崩れていることに懸念を示している。国防費だけを見るとどんどん差がついている。なので、台湾は政治的意識が高くなりつつも、軍事的には非常に不安に思っている。このような状況が、一番危ない。不安に思えば思うほど、じゃあ中国がミサイルを増やしたから台湾も増やそうということで、安全保障のジレンマという状況が起きているのである。一応アメ

リカは中台で紛争が起きた場合は台湾を守るという風に約束しているので、あくまで平和的に解決しようというのが米中の７０年代以降の約束なので、もし中国が軍事的な方向で、非平和的手段でやろうとしたらアメリカも動かざるを得ない。アメリカはそれが嫌なのである。なぜなら今は中東が問題なので。なので、アメリカは台湾にちょっと待つように言ったりとかしている。この台湾の問題が日本の周辺、地域安全保障関係の主要な問題の一つになっている。
あとは国際レベルの脅威というのもあるが、何が脅威かというのは、本当に立場によって変わる。

◆そもそも「脅威」とは、
立場によって解釈が異なる。（例：侵略か？自衛か？）
意図(intention)X 能力(capability)
直接的か、潜在的か？ (直接的脅威 direct threat,潜在的脅威 potential threat)

能力だけで見たら、アメリカがトップである。アメリカ全世界にとって脅威になりうる。しかしなぜ日本はアメリカを脅威に思っていないのか。意図はどうなっているのかを考えなければならない。つまり、アメリカは日本を攻撃する意図があると宣言してくれれば、たちまちアメリカが日本の脅威になるのである。しかし、意図というのは国際関係によって変わるので、北朝鮮にとってはアメリカは脅威であり、イランにとってもアメリカは脅威である。核施設を爆撃するかもしれないって言っているんだからね。ちゃんとその意図に伴う能力も持っているしね。つまり、能力があって、かつその能力を使うという意図、敵対的に使うという意図が無ければ脅威にはならないのである。
そこで日本の地域安保環境を考えたときに、例えば中国は脅威なのか。脅威となる部分があるとすればどういう部分なのか、脅威じゃないとすればそういう部分なのかを見極めていくのが、安全保障の仕事なのである。

３、地域安全保障環境

○ 地域対立（ないし地域紛争）の要因
（１） 国境線や領有権をめぐる見解の相違
（２） 民族的反感
（３） 宗教的対立
（４） 有限資源の争奪
（５） 政治体制の相違
（６） 国力の不均等発展
（７） 地域覇権国(regional hegemon)

地域の安全保障を考える上で、このような地域対立の要因が考えられる。日本の場合は、１の「国境線や領有権をめぐる見解の相違」がつきものであり、かつ４の「有限資源の争奪」も一つの問題になっている。東シナ海がまさにその例である。ガス田の話ね。中国の方が先にガス田開発始めちゃって、日本は押され気味ね。で、どれと同時に７の「地域派遣国」、中国は派遣国である。これが地域の安保のみならず、自分の国境まで脅威になっているというのが最近の日本である。
中国の台頭がすることによって中国の台頭という地域の安保が国家の伝統的脅威というレベルに置き換えられてしまっているという状況を引き起こしている。
今日のポイントは伝統的脅威と言うことで、非伝統的脅威・人間の安保とか色々あるが、やはり伝統的脅威も無視できない。アメリカはグローバルなテロ脅威などを見ているが、むしろ日本の場合、それと同時に昔よりも伝統的脅威という部分が、中国の発展や北朝鮮の脅威によってますます

問題になっている。後は記事を読んでね。終わり。